

論文試験

(注意事項)

- 一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 二 本試験問題は（この表紙と白紙を除き）12頁、解答紙は4枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。
- 三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 四 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は無効とする。
- 五 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。

第1問 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】大屋雄裕『自由か、さもなくば幸福か?』(筑摩書房、2014年)69-81頁

〔注記〕なお、問題の作成にあたり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①と筆者が言うのはなぜか。250字以内で説明しなさい。

〔配点：45点〕

問(2) 筆者は「アーキテクチャ」という統制手段にはどのような問題があると考えているか。国家による法規制との違いにもふれつつ、500字以内で説明しなさい。

〔配点：80点〕

第2問 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】本田由紀『多元化する「能力」と日本社会——ハイパー・メリトクラシー化のなかで』(NTT出版、2005年)20-30頁

〔注記〕なお、問題の作成にあたり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①とされているが、それはなぜか。

「近代型能力」との対比にもふれつつ、250字以内で説明しなさい。

〔配点：45点〕

問(2) 下線部②という見方に筆者は共感を示しているが、あなたはどうか。

具体的な例を示しつつ、500字以内で述べなさい。

〔配点：80点〕